

郷中だより



令和3年6月11日
倉敷市立郷内中学校長発行
学校だより 第9号

二十四節気の芒種（今年^{ほつしゆ}は6月5日）を過ぎた頃、学校周辺のあちらこちらで田植えが終わり、小学校の下のふれあいの園の芋づるがぐんぐん成長し、そのまわりのかわいらしい花たちが彩りを添えていることに気づきました。郷中のウエルカムウインドウにもカエルや傘、スイカ、紫陽花などが登場しました。バレーボールやおにぎりは、きっと備南東大会への思いなのでしょう。楽しみです！

人権週間

今週は本校の人権週間でした。月曜日の校長講話、火曜日から金曜日までの文化委員さんたちによる人権作文の朗読、人権をテーマにした道徳授業、人権標語などの取組を行いました。



校長講話では、①郷内中学校がめざす学校像「生徒が主役の学校 ～笑顔・秩序・信頼～」は、全員の人権を大切にすることが土台にあること。②2015年の国連サミットで設定したSDGs（持続可能な開発目標）の前文には、「誰一人取り残さないことを誓う」「すべての人の人権を実現する」という言葉が明記されていること。③「セーブ・ザ・チルドレン」という団体の活動では、売上げの一部が世界の子どもたちを救う活動に寄付されており、本校の体操服も購入することで業者さんの売上げの一部が、病院で治療を受けられない、食料が足りないなどの厳しい状況にある子供たちを救う活動の資金になっていることを紹介し、間接的に国際貢献の一助となっていること。そして、学級や学校、地域などの小さな社会でも、国際規模、地球規模の大きな社会でも、「自分も他の人も大切な存在」という気持ちを持ち、その気持ちを様々な場面で言葉や行動に表すことが大切であることを話しました。今日の行動が1年先、10年先、30年先・・・の未来につながっていくのですから。

2年生の道徳から



タレントの春名風花さんが、小学校6年生の頃、SNSで「ウザい」「ブス」「消えろ」などの鋭い言葉のナイフで心を傷つけられた経験を振り返り、「いじめをしている君」へ、いじめの卑劣さを訴えた文を読み、感じたことや考えたことを書きました。

人として存在することは誰かが決め、認めることではなく、誰もが生まれた時から持っている権利だと思います。自分が満たされるためだけに、人の存在を否定する権利は、誰もっていないのだから。

いじめは思っている以上に悪いことで、遊び半分でやっているかもしれないけど、一番つらいのは、いじめをされている人の親だということがわかりました。いじめがなくなればいいです。

春名さんは、いじめられたことについて SNS や本で発信されていてすごいと思いました。私だったらいじめられていても、それを必死で隠そうとするけど、自分から行動していた春名さんは立派だと思います。

(裏面に続く)

変わらないかもしれないけど、いじめをしている人も変わらないといけないけど、まわりの人も変わらないと、見ているだけでは、いじめと同じだと思いました。

人は他の人と比べたがるから、いじめはなくならないと思う。

いじめがこの世からなくならないのが不思議です。誰も得しないのに……。私は将来大人になった時に、いじめゼロにしたいです。自分の力だけじゃできないかもしれないけど、みんなの力を合わせるとできると思います。

3年生の道徳から

今週の道徳は「優しいうそ」で、小松先生の授業でした。

「交通事故で全身麻痺の身になり、ドクターから「一生寝たきり」という過酷な宣告を受けた女優である筆者は、家族やまわりの人の心配そうな顔を見るのが辛かったので、体も動かず肺も閉じ呼吸もおぼつかない状態で絶望の淵にいたのに、「大丈夫！元気！元気！」を口癖にし周りの人たちに優しいうそをつき続けたのです。そんな時、病室を訪れた水上勉氏の一言で、再び、自分の使命を見出した。」という内容でした。

身体に麻痺が残っても、絶望しても生きるための希望や決心が人生を180度変えるのだと思い、生きることの喜びを感じた筆者の前向きな生き方に、自分も身体にハンディがあっても希望を見つけ、前向きに生きようと思いました。

（全身麻痺になっても）自分に今残っているものをどう生かしていくか、これからの人生をどうやって生きていくかを考えているところに感動しました。ぼくも自分にあるものを最大限に生かしていきたいです。

「要らんで生まれてきた者はおらん。みんな必要があって生まれてきとんや。」という言葉が心にしみました。だから、少し辛いことがあっても、失敗してもがんばろうと思いました。

筆者は事故で全身麻痺になって本当に大変な状態だったが、声で（女優が）できると水上勉氏に言われて、また希望が見えてやる気が湧いてきて、よく復活したなと思います。僕なら絶対に諦めていました。生きようという強い気持ちがあったからこそ復活できたんだと思います。

人権作文から

最終日の今日は、「もう二度と繰り返さない」という題でした。

老人福祉施設のボランティアで会ったおじいさんから聞いた戦争の話を通して、世界で唯一原爆を落とされた国である日本として、これからも「戦争放棄」を貫き通したいという作者の思いが強く書かれた作文でした。

戦争がはるか遠い昔のように感じられるが、まだ100年もたっていないということに驚いた。70年余りさかのぼると、周りが焼け焦げて食べ物もままならない地獄のようだったのだ。戦争はとてもひどいことだと思う。（1年生）

昨日の社会でも習ったけど、自分と同じくらいの年齢の人たちが国のためということで多くの犠牲者を出しているのだから、もう二度とこんな戦争が起こらず平和な世界になってほしい。（3年生）

ぼくは毎日ではないけど、たまごご飯が食べられるのは当たり前ではないと考えていた。戦争をしないことを守り続けてきたからこそ平和に生きている。感謝していきたい。（3年生）